



TITLE:

各地よりのたより

AUTHOR(S):

CITATION:

各地よりのたより. 天界 1940, 21(235): 30-31

ISSUE DATE:

1940-12-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168094>

RIGHT:

★ 掩蔽課より 久しぶりで水星が太陽面通過をやつたので、各地の會員たちは各々観測した。山本會長や木邊部長は滋賀縣の郷里で、岡林本田兩氏は倉敷で、又、大阪のプラネタリウムでは高城山形大口氏等が観測した。又、山本進山口善造兩氏は木邊観測所で観測した。伊達英太郎氏は雲に妨げられた由。以上は今までに報告が到着した方面であるが、尙ほ其のほかからも今後報告は集まるだらう。(詳細は次號にゆづるが、數値は取り敢へず急報を見られよ。) 此の日(十一月12日)、天氣は一般に良く、殊に西の地方ほど快晴に恵まれたが、東方は雲又は雨で、東京は朝から雨だつたらしい。木邊観測所では危ふい所で第4觸が雲に妨げられようとしたが、幸ひに免がれた由。(1940—11—13. 幹事)

各地よりのたより

倉敷通信

發見談と云ふ程の苦心もロマンスもない。それでは樂をして彗星を見つけ出したかといふと、さうでもない。“組織的の搜索を始めて未だ日も淺くて、語るべき經驗も苦心といふ程のものもない”の意である。どうして、こう云ふ様な事を始めたかといふと、可笑^{オカシ}な話だけれど、自分の此れまでの“發見”とか“獨立發見”といふものが、凡て偶發的になされたものであるから。——“少し苦勞をしてやろう”と、謂はゞ“罪亡し”の様な氣持から起つたのである。然し、いざやり始めて見ると、その困難さは一入であつた。口には盡されぬ。筆にも書けぬ。書藉に“望遠鏡を無暗矢鱈にあつちこつちに振り廻はしておれば見付かる”と云ふ様な事が書いてあるが、あれは嘘だ。こう云つた無責任な事を書くから、彗星が發見されないのだ。“彗星探しと云ふものは非常に困難なものではあるが、努力と忍耐は必ずその實を結ばしむるものである”と云ふべきだ。“彗星搜索に、適不適は、造られるものではなくして、生れるものだ”と云ふ言葉の眞偽は私は知らぬ。私に云はしむれば、多くの彗星の發見者は、最初の彗星の發見に依つて自信と度胸とを持つ様になつて、その後のたへざる努力を以つて多くの發見がなされるのではあるまいかと思ふ。失望と焦燥の幾日かゞ續いて、もはや自信も希望も失なつて仕舞つた時、我々を支持し慰めてくれるものは先人のたどつた足跡だ。メシエはどう？ パーナードはどうであつたか？ リイドはあゝであつた、と、これ等の先人の遺した涙ぐましい跡をたどつて我々は再び新しい希望と努力を持つ。こう云ふ過程を経ての發見だ。嬉しくない事があらうか！ 私は冷靜な科學者を以て自から任じはしない。赤裸々の人間をさらけ出して、大空に呼ぶのだ。夜半の靜寂な空氣を破つて、大聲

に自分の発見を喜ぶのだ。

今度の彗星発見以前の事情は、もはや急報にも出た事だし、或は本田さんが書かれると思ふから、もうこゝには書かない。又、どう云ふ方法（とりたてゝ云ふ程の事もないが）でやつてゐるか？と、何時か書く機会があると思ふから次回に譲る。たゞ私の日常用ふる器機は7センチ、倍率33の屈折望遠鏡で、像はあまりよくない事だけ加へたい。

さうして、末尾に、矢張り彗星探しをやられる事を人に推める。たゞ初頭にかいた様に、“彗星探しは容易ならざるものである”と云ふ事を念頭において、筆を擱くにあたつて、祝詞をたまはつた皆様に厚く御禮を申し上げます。

(15—11—5, 岡林生)

観測報告に添へて

観測報告について二、三申し上げます。

観測地奈良本臺地は當片瀬より約3軒程北方の高地(約100—150米)でございまして、三月上旬よりの片瀬の観測は西天の連山(天城)のため、下部を約10—20度遮へぎられますので、三月10日よりの観測はすべて出向いて居ります。観測場所としては相當に良い場所であらうと思ひます。ほとんど暗黒でございまして、極遠距離に微光なる燈火一、二あるのみです。たゞ一寸不便と感じますのは、到着いたしますまでに暗黒の近道に約30分を要し、時間と天候とを十分に推定をつけなければなりません、又、幾度か徒勞に終つた事もございましたが、重要なる黄道光観測記録の爲と思へば、何等恨ることはございません。しかし住居附近に適當の観測場所を持たぬと云ひますことは、自由なる観測を或る程度(カナリ)束縛いたすものとして、觀者の悩みであり、一つの缺陷であらうと思ひます。色々と観測して参りますと、黄道光が諸種の氣象に及ぼされる(眞の黄道光研究の大きな邪魔物としての地球大氣)——の影響などを完全に究めることが必要ではないかと存じます。黄道光研究上の重要なる観測實行部門ではございませんでせうか？

尙ほ、私は本観測部に氣象課のありませぬのを何か物足りなく存じます。黄道光ばかりでなく、他の全ての天體観測が氣象上の好條件を利用して、より優秀なる観測をなすべきことは私如きものが申すまでもなく、既に先生が天文講座にて御述べ下されました様に重要なるものと信じます。此爲には氣象課が各種の氣象の研究をなし、觀者に最上の便宜を(種々の發表によつて)與へ得べきでせう。そしてより優秀なる貴重なる記録を残すべきではございませんでせうか？ 重要且つ利用の廣いものではないかと愚考し、氣象課の設置を要望申し上げます。(醍醐生)